

取組による効果①：“MR(複合現実)技術”を活用した“遠隔臨場”

現実の3次元空間に完成イメージや地下埋設物等のデジタルな3次元モデルを重ね合わせ、現地における1/1スケール3次元データ(MR映像)をネットワークを介して事務所とリアルタイムに課題を共有した。



取組による効果②：“2次元バーコード”を用いて容易にモデル確認

誰もが容易に3次元モデルを360° 閲覧できるように、専用ツールを用いず2次元バーコードを読み取るだけで確認できるよう取り組んだ。

◆スマホやタブレットで2次元バーコードを読み取るとその場所の完成予想図や施工ステップ状況を360°で確認可能 (アプリ等のインストール不要)



取組による効果③：“360° 動画”を用いたシミュレーション

地下横断歩道、施工時切り回し(昼間・夜間)の歩行・走行シミュレーション、地下横断歩道出入口部における沿道やバス転回路における視認性シミュレーションなど360° 動画を用いた各種シミュレーションを合意形成に活用した。

地下歩道の歩行シミュレーション



仕上げ材の確認 (パネル、タイル等)



沿道からの視認性確認



バス転回路の視認性確認

